

## 報告・協議

### (1) 令和4年度学校経営計画書、重点目標について

鈴木：グラデュエーションポリシーはどの学校でも同じものなのか。また、どのように決めたのか。

学校：学校によって違う。その学校が目指すものに沿う形で作られている。11の項目については、昨年度に教職員に聞き取り等をして、それらを集約したもの。

石川：大学でも3ポリシー(ディプロマ・カリキュラム・アドミッション)を策定している。これを入試制度で具現化を図っている。高校では、入試の工夫などはどのようにしているのか。

学校：学校裁量枠Ⅱというものがあり、中学の評定合計を評価の対象としている。リーダー的要素を持った生徒が入学している。

石川：大学でも高校時の評定平均を評価するいわゆる推薦入試を進めており、それで入ってきた高校での成績が良い生徒は、学生は大学での成績が良い傾向がある。

勝又：先般実施された共通テストは、難化が見られたが、そういった難問に対応するがにはどうしたらよいか。岡峰様に聞きたい。

岡峰：⑥の知識・技能が必要なのはもちろん、③関心・知的好奇心を重視している。塾の現場では、⑥を早めに、実践力を深堀している。⑤が必要。

平田：グラデュエーションポリシーの一番初めに自己肯定力が挙げられているが、親目線から言ってもとても良いと思う。目標設定力からの後半の5つは確かに大事だがそう簡単ではないとも思う。想像力は、育てようがない。切磋琢磨することが大学院では必要。みんなの意見を聞けない学生は伸びない。

鈴木：海浜教室に代わってスタディツアーが1年次生の行事が設定されているが、50年以上続き、一つの事故もない伝統行事であったが変更したその経緯をお聞きしたい。

学校：現状として、初めて海に入る生徒が増加し、現在はコロナ禍ということもあり、ライフセーバーや大学生の補助員の確保ができず、年々安全確保という点からも開催が難しくなってきた。海浜教室の目的は高原教室の目的と似通っていることを考えて時代の流れも踏まえ、2年間は新たな試みのスタディツアーを実施したい。

豊山：根性論では持っていけない、時代の流れもある。

岩城：グラデュエーションポリシーすべてを達成しようとするとう無理があるのでは。個々の生徒に応じた対応もお願いしたい。

学校：個々の能力により、重点が変わっていく。個別最適な学びも進めていきたい。

#### (1)各委員より助言

鈴木：校内施設は比較的きれいで整っている。長倉教室の活用の推進を求める。オンラインワン事業はわかりやすくとても良い。成果が出ることを期待している。

石川：他校にない先進的な取り組みをしていることがよく分かった。今後更なる具現化を実践してほしい。

平田：今日はとても興味深く参加することができた。国立遺伝学研究所とのコラボ事業も引き続き進めていきたい。気軽に声を掛けてほしい。生徒の将来を決めてしまうのではなく、たくさんの情報を与えるのはよい。

勝又：非常に参考になった。教育現場は大きな変革が求められている中で、先生方のアプローチも改革を余儀なくされるのだと思う。先生方のスキルアップが原動力になる。

岩城：トイレがきれいになっていてよかった。ICTも積極的に取り入れてほしい。学校はどんどん変わっていかなければいけない。判断力や課題発見力をつける必要がある。

岡峰：沼東に来るのは今回2回目。生徒にとって、駅からやや離れ、最後あの坂を上ってくるにはそれ相応の覚悟と期待があるからこそだと思う。大学入試の方向性と合って進学実績が上がっている。そのような魅力をさらに外部に広報したらよいと思う。

豊山：もう卒業した自分の娘を見ていて、グラデュエーションポリシーにある協働・巻き込む力について実感したことがあり、それはリーダーシップももちろん大事だがフォロワーシップも同じように大事だということだ。スピード感をもって学校を変えていってほしい。